

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	1-1-1	2-1-1	事業名	札幌元気基金事業(さっぽろ元気NPOサポートローン)
担当	市民まちづくり局市民自治推進室市民活動促進担当課 高田 211-2964			
全体計画（当初）				
事業内容	本市においては、市民一人ひとりが地域のことを主体的に考え、課題の解決に向けて自ら活動する「市民自治が息づくまちづくり」を目指している。 その担い手となることが期待されている市民活動団体が、活動に必要な融資を低金利で円滑に受け取ることができるよう金融機関に対する利子補給や損失補償を行う。		＜年度別の事業内容＞	
			【16年度】 融資枠 2億円 利子補給を行うことで金融機関における最大3.875%という金利を2%に低減するとともに、損失補償を行うことで法人格や活動実績要件の緩和を図る。 【17年度】 融資枠 4億円 取扱金融機関の拡大 【18年度】 融資枠 4億円 資金需要を見ながら、適切な制度運用を検討していく。	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成16年度事業内容(決算)		平成17年度事業内容(決算)	
	融資 融資枠 2億円 融資実施件数 総数8件37,000千円 (内訳 分割2件13,000千円 一括6件24,000千円)  事業費 利子補給3件 35千円 損失補償 なし 経営相談の実施924千円 事務費等640千円		融資 融資枠 4億円 融資実施件数 総数7件24,000千円 (内訳 分割2件3,500千円 一括6件20,500千円)  事業費 利子補給 7件 347千円 損失補償 なし 経営相談の実施 662千円 事務費 438千円  元気基金全体で500億円の融資枠を目指しており、NPOサポートローンについても、市民活動の円滑な活動をさらに積極的に支援する観点から、17年度については有担保の設備資金(融資枠5,000万円)については、融資枠を2億円拡大し、総体の融資枠を2億円から4億円にした。 また、利用者の利便性を向上させるため、取扱金融機関の拡大(16年度1行から17行に拡大)を行った。	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成18年度事業内容(決算)		評価(成果)	
	融資 融資枠 4億円(総数35件 400,000千円) 融資実施件数 総数14件49,470千円 (内訳 分割3件8,770千円 一括11件40,700千円)  事業費 利子補給 14件 337千円 損失補償 なし 経営相談の実施 469千円 事務費 244千円  17年度とほぼ同内容で実施。経営相談については、16・17年度はおおむね週1回実施していたところであるが、より制度のPR効果を高めるため、資金需要の高まる年度末に、集中的により幅広い層を対象として講座形式で実施した。		市民活動団体は、委託事業など公益事業を行う際、信用保証協会の保証を受けられず、金融機関からの融資を受けづらい状況にあることから、本市が利子補給及び損失補償を行うことで、低金利で速やかな資金調達が可能となり、本市のまちづくりにかかわる事業の実施が活発となる。	
課題				
平成16年6月にスタートした制度であり、着実に融資件数は増えているものの、今後潜在的な資金需要の掘り起こしも必要と思われる。 また、金利の設定については、金利動向も見据えながら検討を行っていきたい。				
19年度以降の方向性・事業の予定				
16年度から開始した元気基金が18年度でいったんの節目を迎えた。18年度では融資件数及び融資総額が前年度の倍以上に増加するという結果になった。これは、市民活動団体が市民活動を行う際に、運転資金や設備資金としての融資を必要としている場合が少なからずあることを示しているとともに、さらなる潜在的な需要があると考えられ、今後、市民活動促進基金(予定)とともに資金支援策として一体的なPRにも取り組んでいく。				

